



### 3. 研究の取り組み

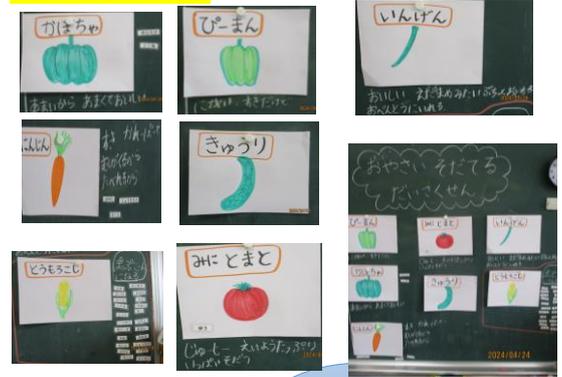
- (1) ドキュメンテーションによる語り合い
- (2) 幼児の変容に視点を置いた事例検討
- (3) 「大好きな木」の作成
- (4) 学級だより、園だよりでの発信 等

実践の取り組みの一例です

つきぐみかいぎ 「いちごぐみさんのおべんとうおたすけおとうぼんをきめよう！」 R6/4/23 (ゆ)



つきぐみかいぎ 「みんなでぞでてるやさいをきめよう！」 R6/4/24 (すい)



年長つき組R6. 4月頃  
※保護者の皆さんへお知らせし、それを基に教職員で語り合いを行いました。

「つきぐみかいぎ」の中には、話し合いだけではなく、多くの経験が詰まっています。発言がない幼児も自分事として考えられるよう工夫しています。

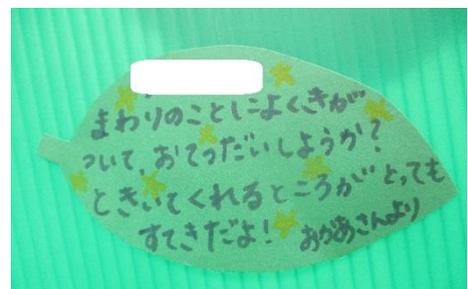


じぶんでえらんでみる みんなでかながえる

### 「大好きな木」の作成

2学期の保護者会にてお子さんの「好き」「素敵」なところを書いてもらい、掲示した。

3学期には、年長組で「自分の好きなところ」を考える取り組みを予定しています。



今年度より、保護者評価アンケートに道徳教育の項目を2つ設定した。保護者の方の道徳教育に関する意識の高さを感じたが、引き続き発信を続けていく。

毎月発行する学級だよりにコーナーを作り、各クラスであった実際の出来事を「道徳性の芽生え」の視点で保護者に向けて発信しています。

## 学級だより、園だよりでの発信

### 道徳性の芽生え！自分を好きになる道のりエピソード 5月「大丈夫だよ」「もう来るよ」

入園して1か月半。園生活に慣れてきたところかと思いますが、ふと寂しくなると「ママ～」と泣き出す子もいます。そんな子たちには、教師が「寂しくなっちゃうよね」「もうちょっとでお迎え来るよ」など、気持ちを受け入れたり共感したりしながら関わってきました。すると最近、泣いている友達の姿に気が付いた子が自分から近づき、「（頭をよよししながら）大丈夫だよ」と声を掛けたのです。そして、その姿が瞬く間に広がり、近くにいた子たちが集まって「もう（お迎え）来るよ！」「寂しよね」など、温かく関わり始めました。そんな子供たちの姿から、“お友達が心配”“優しくしたい”“優しくしてもらった”…など、たくさんの【道徳性の芽生え】が見られた気がしました。身近な大人（教師やおうちの人など）の態度や言葉は、子供たちにとって、とても重要な学びの要素となっていることを実感しました。

年中うめ組

年少いちご組

年長  
つき組

### 道徳性の芽生え！ 自分を好きになる道のりエピソード

ある日の朝、「先生！ザリガニが死んじゃってる！！」と大慌てで担任に声をかけにきたAさん。その声を聞いた周りの子供たちと担任と一緒に水槽を見に行くと、そこには水にふわふわ浮かぶザリガニが・・・！（実は、これはザリガニの抜け殻でした。子ども達は抜け殻を見て、「死んじゃった」と思ったようです。）

みんなで「どうしよう…」と困っていたところ、生き物が好きなBさんが「これ、脱皮したんじゃない？」と教えてくれました。そこで、皆でザリガニの図鑑を見て「脱皮ってこうなるんだね」と納得しました！ですが、脱皮したばかりの皮は柔らかいことを心配したCさんは製作コーナーで「具合の悪いザリガニさんへ」とお見舞いの花束を作って、水槽に付けてくれました。そして、花束を付けているCさんに気付いた周りの子ども達も「大丈夫？」「早く元気になってね」と声をかけていて、素敵だなあと感じた担任でした。

「ザリガニの脱皮」の出来事を通して、生き物の成長に関わる変化に気付いたり、生き物を心配したりと、様々な姿が見られました。

### 道徳性の芽生え

#### 自分を好きになる道のりエピソード

・タオル掛けの下に、タオルが落ちていたのを拾った子が「これ誰のタオル？名前が書いてないから分からなくて困っているよ…」「僕、分かるよ！匂いで分かるから貸して」と言ってタオルを嗅ぐと！！「あ！〇〇くんのだ」と言ってタオルを渡りに行く…。「ありがどう！僕、どうして何で分かったの？」「だって〇〇くんの匂い覚えてるから」「へえ、すごいね！」と周りの友達もびっくりしてはしゃぎながら「匂いで分かる名探偵に〇〇くんの匂いでどなたの匂いなの？」とこっそり聞いてみると「分からなくて、〇〇くんの匂いは知ってる」と言っていました。（笑）

- ☺ タオルが落ちていたらすぐに拾ってあげる。
- ☺ 「誰のだろう？」とじい覗いてあげる
- ☺ 自分のことだけでなく、周りのことをよく見て過ごしている。

このエピソードの中に、たくさんの素敵な姿がありました。

- ☺ 匂いで分かる名探偵がいますが、持ち物には記名をお願いします。

## 4. 成果と課題

- 研究仮説の図に基づき事例をとることで、発達の見通しをもつことができ、その時の幼児の育ちに合わせた適切な援助ができた。全事例を通して、基盤となる『ステップ1』がいかに重要かわかり、「ステップはスムーズには進まないこと」「ステップが戻ることもあること」を踏まえて経験を積み重ねることが大切だと気付くことができた。また、直接体験や協働体験、感動体験等がいかに大切かを再確認できた。
- 事例を通して、長期的に子供を見る意識と視点をもつことで気付けることがあり、事例検討を全担任で行うことで、他学年との育ちのつながりを感じられ、つながりを意識しながら日々の保育を積み重ねることができた。また、幼児一人一人の背景をきちんと理解した上で保護者と連携することで、より良い育ちや変容につながっており、幼児理解の大切さを改めて共通認識できた。
- 事例検討により、研究仮説のような育ちの変容が見られたが、学級の中でも発達の差があるため今後も一人一人の育ちを捉えて、ステップに合わせてきっかけを与えていく教師の援助が必要である。

学級の実態

＜遊びへの取り組み＞

- ・自分達で場の構成を楽しみながら、様々なお店屋さんごっこや恐竜広場、動物ランド等を作って遊んでいる。その中で、自分の思いや考えを伝え、相手の思いに耳を傾けたり受け入れたりしながら友達と遊びを進めている。
- ・学級全体で取り組む勝敗のあるゲーム遊びや運動遊びを通して、勝った時、負けた時の両方の気持ちを体験し、実体験を基に一人一人のレジリエンスが芽生え始めている。

＜人との関わり＞

- ・年少組や年中組との異年齢集団の中で、優しく声を掛け、困っている姿を見ると「大丈夫？」と、心配しながら解決策を考えながら関わっている。
- ・友達同士で、互いの思いを伝え合い、自然と対話をする幼児が増えてきた。友達との意見の相違があった時には、自分達で互いの思いを伝え合い解決しようとする姿も見られるようになってきている。
- ・教師の話最後まで聞こうとする幼児が多くなったが、話の途中で、発言する幼児の姿も見られる。

＜生活への取り組み＞

- ・黒板に掲示している一日の流れを見ながら、見通しをもち、自分で考えて行動する幼児が増えてきた。一方で、気持ちの切り替えに時間を要する幼児に対しては、事前に次の活動を知らせることで、見通しをもって、過ごせるようになってきている。一人一人の Wellbeing な日常が実現してきている。

＜補助教諭との連携＞

- ・こども発達センターに通い、園には週3回登園し、車椅子で過ごしている幼児1名が在籍している。本児のやりたい気持ちを尊重しながら幼児の動きを見守り、周囲との安全な距離感に配慮している。
- ・外国にルーツのある幼児や支援を要する幼児が、学級での活動に興味をもち参加できるように連携を取りながら進めている。

研究主題への取り組みと教師の願い ～明海中学校区『特色のキーワード』を軸に～  
『自分を好きになる ～幼児一人一人の心が満たされるための教師の援助～』

幼児が自分の思いを自分なりの言葉で伝えようとする姿を全て受け止め、まずは、一人一人が自分の考えや思いを安心して話せる関係性を大事に築いてきた。毎日、学級で「つき組かいぎ」の時間を作り、対話を重ね、教師が聞き手、話し手の見本となってきたことで互いの考え方を理解しようとする姿や相手を受け入れようとする姿が学級全体で広がり、“相互理解、寛容”へと繋がっている。また、安心感の積み重ねで心の通わせ方を学び、考えていることを「誰かに聞いてもらっていいんだ」と思えるようになり、ありのままの自分を周りに表出できるのではないかと思う。家庭と連携しながら幼児のレジリエンスを高めること、地域交流を通して様々な人と関わることで Wellbeing な関係を醸成していくことになり、幼児一人一人の育ちに大きく影響していくことを感じている。

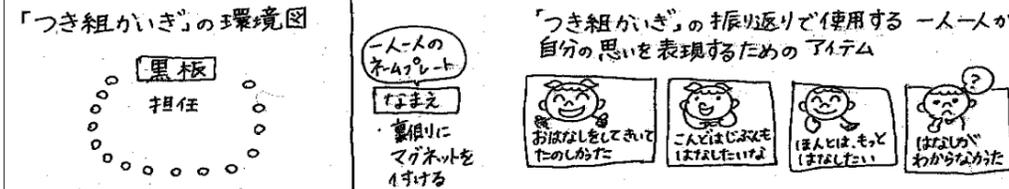
本日のねらいと内容

- 自分の気持ちや考えを出し合って活動することを楽しむ。
- ・自分の考えを言葉で伝えたり友達の話を聴いたりしながら学級の皆で対話を楽しむ
- ・教師や友達の話に興味を持ち、互いの思いや考えを知る。

評価の観点

- (幼児)・自分が感じたことや思いを自分なりの言葉で表現し、友達の思いや考えを聴こうとしていたか。
- ・自分の思いを出しながら友達と遊びを進めていくことを楽しんでいたか。
- (教師)・学級の皆が、安心して自分の思いを話したり友達の話を聴けたりするような援助や関わり方をしていたか。
- ・学級全体での活動を楽しめるように、幼児が興味・関心を持てる内容や進め方になっていたか。

【相互理解、寛容】 【レジリエンス】 【Wellbeing な関係の醸成】 ※太字で表示

時間	活動の流れ	予想される幼児の姿及び教師の援助(○幼児の姿 遊びの経過 ◎ねらい・教師の援助)
8:50 ～ 9:00	○登園する	<p><b>学級全体で取り組む活動</b> つき組かいぎ：テーマは未定</p> <p>○学級の皆で考える時間「つき組かいぎ」や友達との対話を楽しむ「つき組お話タイム」を一学期から毎日続けている。自分の考えを伝えられる幼児、教師や友達の話に耳を傾けられるようになった幼児、自分事として考えられるようになった幼児等、様々な幼児の姿がある。一人一人が学級の一員として「つき組かいぎ」に参加することで、自分なりの考えや思いを持ち始め表出するようになってきている。</p> <p>○10月の運動会に向けた活動を通して、チームの友達と作戦会議を何度も重ねてきたことで、皆で考えたり対話をしたりする時間を楽しむようになってきている。</p> <p>◎学級の皆で対話を楽しむ。 ◎自分なりの考えを言葉や表情で伝え、友達の考えにも耳を傾ける。</p>
9:30	○学級全体で取り組む活動をする (つき組保育室) 「つき組かいぎ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から学級一人一人の呟きに耳を傾けながら幼児の興味・関心を探っていき、その日のテーマを幼児たちと一緒に決めるようにしている。本日のつき組会議で話すテーマも、幼児が“皆で話したい”と思える内容にする。</li> <li>・教師や、友達の声が届きやすい距離感や幼児の表情が見えやすい椅子の配置に意識し、環境構成を考える。また、教師も幼児と同様に椅子に座り、同じ目線で話を聴く。</li> <li>・“かいぎ”の始まりの声掛けは穏やかで心地よくなる声のトーンを意識し、幼児が興味を持ち「つき組かいぎ」の時間のスタートになるようにする。</li> <li>・「つき組かいぎ」では、発言力がある幼児、思いはあるが自ら発することが苦手な幼児、発言はしないが相手の話に耳を傾けている幼児等、様々な幼児の姿がある。一人一人の姿を全て受け止め、学級の皆で同じ時間を共有することや互いの思いを伝え合う時間を大事に進める。</li> <li>・対話の中で、絵や文字にすることで周囲のイメージが共有できそうな時にはホワイトボードに板書をしたり黒板に絵表示で表したりする。</li> <li>・幼児が話したくなるような一人一人の内面に関わりのある質問の投げかけを意識し、ファシリテーターとして進めていく。</li> <li>・誰もが安心して話したり、聴く姿勢が自然と生まれたりするよう、一人一人の話す表情を見て、笑顔で頷きながらじっくり耳を傾け、最後まで話を聴く姿勢を教師が見本となり表現する。</li> <li>・“一人一人が話を聴いてもらう＝自分が受け入れられる”ことの嬉しさに繋がるように幼児の表情や心の変化を探りながら声掛けをする。</li> <li>・「つき組かいぎ」での振り返りでは、「今日は、みんなでこんなことを話したね」と共感し仲間として振り返ることで、学級の皆で対話をした実感をもてるようにする。また、最後に“お話を聴いて楽しかった”“今度は自分も話したいな”の項目に加え、一人一人が思いを表出しやすいようにする。これらの項目を絵表示も踏まえて黒板に貼りそれぞれの思いや考えをネームプレートを使って表現できるようにする。</li> <li>・「今度はこんな話をしたいな～」と幼児の心に余韻を残せるような声掛けをし、次回の「つき組かいぎ」がより楽しみになるようにする。</li> </ul>
9:50	○つき組かいぎの振り返りをする	
10:00	○室内遊びをする ・スターウォーズごっこ ・ドラゴン・勇者ごっこ ・お寿司屋さんごっこ ・動物ランド 等	
10:50	○片付けをする	
11:00	○学級全体で取り組む活動をする (ホール) ・表現活動	
11:30	○表現活動の振り返りをする ○昼食時の活動をする	<p>「つき組かいぎ」の環境図</p>  <p>一人一人のネームプレート 「おまえ」 ・裏側にマグネットを付ける</p> <p>「つき組かいぎ」の振り返りで使用する一人一人が自分の思いを表現するためのアイテム</p> <p>おはなしを聞いてたのしめた みんなはじみえはなしたいよ みんなは、もっとはなしたい はなしがわかるといいな</p>